

# 戦争体験伝承事業、「動画をもっと活用して」と提案

9月議会総務常任委員会で私は戦争体験伝承事業を発展させる提案をしました。ひと言でいうと、「動画をもっと活用しましょう」という提案です。

私は、市が昨年取り組んだ「戦後75年戦争の記憶を語り継ぐ」の動画を見て、動画による戦争体験の記録の大切さをあらためて確認したとのべました。そのうえで、「10数年前、吉川区で一人のおばあちゃんが、『出産したその日に夫への召集令状が来た』ときの切ない体験を語ったことを思い出し、『なんで動画で記録しなかったか』と反省している。戦時下の切ない体験を語れる人が少なくなっているいま、急いで体験を発掘し、動画で記録してほしい」と訴えました。

野上自治・市民環境部長は、「動画で載せるということ、高い効果を得られると認識している。できることから動画による（体験談の）採集に取り組んでいきたい」と答えました。

## やまざと暮らしの魅力発信 さらに広く、活発に

中山間地域振興事業の一環として行われた「ふるさと支え合い等推進事業」についても発言しました。

「ふるさと支え合い等推進事業」は「中山間地域のすこやかな暮らしを守る

ため、集落等における地域の課題及び集落出身者等と連携した維持・活性化方策についての住民自らの話し合い並びにその実現に向けた活動」をするものです。昨年度は安塚区細野町内会と吉川区下川谷町内会が「農村回帰」や「移住促進」をねらって情報発信をしてきました。

私は、この事業が中山間地域振興をしていくうえで重要な役割を果たしているとして、吉川区での「やまざとに暮らして」ブックレット作成にふれながら、「中山間地での暮らしの楽しさをクローズアップし、山里での暮らし案内の手引となっている。こうした取組は中山間地で大いに広げていく必要がある」と訴えました。

野上自治・市民環境部長は、「私もブックレットを読み、たいへん楽しく暮らしておられると思った。安塚や吉川区の事例をキチンと精査したうえで、どのように発展させていけるか検討していきたい」と答えました。また、田中自治・地域振興課長も「移住定住だけでなく、そこに住む人たち自身の愛着、誇りにもつながると認識している。地域で生き生き活動されている事例紹介は大事な視点だと思うので引き続き推進していきたい」とのべました。



## 避難所運営マニュアル改訂版、近く市のHPに掲載へ

市では昨年8月、「新型コロナウイルス感染症に対応した避難所開設・運営マニュアル（手順書）」を作成しています。そして、これをもとに避難所初動対応職員、地元町内会などとの打ち合わせを行っています。私からはそこで出た意見をマニュアルに反映させたかどうか、新型コロナの下での避難所運営に当たる職員体制はどう強化されたのか、マニュアルを活用した訓練はどうしたかなどを訊きました。

マニュアルは昨年8月の策定以降出された意見を反映させ、近くホームページに掲載するということでした。避難所の職員体制はこれまでの3人から6人となる見込みです。



【シロバナツリフネソウ】ツリフネソウ科の1年草。漢字で「白花釣舟草」と書きます。ツリフネソウと言えば、赤紫色の花をよく見かけますが、これは白い花です。通常のツリフネソウの変種なのでしょう。花期は9月～10月。花言葉は「安楽」「詩的な愛」。写真は9月16日、大島区角間にて撮影。



柿崎区浄善寺での「手仕事、手づくり展」、今回も竹や草木などを使った見事な手づくり作品が並びました。写真は宮川悦子・原佳子さんの草木染めです。「かや」（ススキ）も染め物に使えるとはびっくりでした。

市内のモニタリングポストは大島区田麦（写真）など2か所で電光表示器が大雪で壊れています。このことは春の段階で私から行政に指摘しましたが、いまだに修理されていません。今回の決算審査で問題にし、対応を訊きました。原子力防災担当者は、「県の監視センターによると、部品調達が間に合わず、今月中に修理完了となる」と答えました。



## 放射線量測定機の電光表示器 9月中には修理完了の見込み

# はしづめ法一の 活動レポート

No.2029 2021.9.26

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 戦争体験伝承事業、「動画をもっと活用して」と提案

9月議会総務常任委員会で私は戦争体験伝承事業を発展させる提案をしました。ひと言でいうと、「動画をもっと活用しましょう」という提案です。

私は、市が昨年取り組んだ「戦後75年戦争の記憶を語り継ぐ」の動画を見て、動画による戦争体験の記録の大切さをあらためて確認したとのべました。そのうえで、「10数年前、吉川区で一人のおばあちゃんが、『出産したその日に夫への召集令状が来た』ときの切ない体験を語ったことを思い出し、『なんで動画で記録しなかったか』と反省している。戦時下の切ない体験を語れる人が少なくなっているいま、急いで体験を発掘し、動画で記録してほしい」と訴えました。

野上自治・市民環境部長は、「動画で載せるということで、高い効果を得られると認識している。できることから動画による（体験談の）採集に取り組んでいきたい」と答えました。

## やまざと暮らしの魅力発信 さらに広く、活発に

中山間地域振興事業の一環として行われた「ふるさと支え合い等推進事業」についても発言しました。

「ふるさと支え合い等推進事業」は「中山間地域のすこやかな暮らしを守る

ため、集落等における地域の課題及び集落出身者等と連携した維持・活性化方策についての住民自らの話し合い並びにその実現に向けた活動」をするものです。昨年度は安塚区細野町内会と吉川区下川谷町内会が「農村回帰」や「移住促進」をねらって情報発信をしてきました。

私は、この事業が中山間地域振興をしていくうえで重要な役割を果たしているとして、吉川区での「やまざとに暮らして」ブックレット作成にふれながら、「中山間地での暮らしの楽しさをクローズアップし、山里での暮らし案内の手引となっている。こうした取組は中山間地で大いに広げていく必要がある」と訴えました。

野上自治・市民環境部長は、「私もブックレットを読み、たいへん楽しく暮らしておられると思った。安塚や吉川区の事例をキチンと精査したうえで、どのように発展させていけるか検討していきたい」と答えました。また、田中自治・地域振興課長も「移住定住だけでなく、そこに住む人たち自身の愛着、誇りにもつながると認識している。地域で生き生き活動されている事例紹介は大事な視点だと思うので引き続き推進していきたい」とのべました。



## 避難所運営マニュアル改訂版、近く市のHPに掲載へ

市では昨年8月、「新型コロナウイルス感染症に対応した避難所開設・運営マニュアル（手順書）」を作成しています。そして、これをもとに避難所初動対応職員、地元町内会などとの打ち合わせを行っています。私からはそこで出た意見をマニュアルに反映させたかどうか、新型コロナの下での避難所運営に当たる職員体制はどう強化されたのか、マニュアルを活用した訓練はどうしたかなどを訊きました。

マニュアルは昨年8月の策定以降出された意見を反映させ、近くホームページに掲載するということでした。避難所の職員体制はこれまでの3人から6人となる見込みです。



【シロバナツリフネソウ】ツリフネソウ科の1年草。漢字で「白花釣舟草」と書きます。ツリフネソウと言えば、赤紫色の花をよく見かけますが、これは白い花です。通常のツリフネソウの変種なのでしょう。花期は9月～10月。花言葉は「安楽」「詩的な愛」。写真は9月16日、大島区角間にて撮影。



高田図書館小川末明文学館ギャラリーで開催された「写友かたくり写真展」を観てきました。桜やフキノトウなどの写真も見事でしたが、まるで絵のようなこの写真に引き付けられました。出展者は吉川区の平田一幸さんです。

放射線量測定機の電光表示器  
9月中には修理完了の見込み

市内のモニタリングポストは大島区田麦（写真）など2か所で電光表示器が大雪で壊れています。このことは春の段階で私から行政に指摘しましたが、いまだに修理されていません。今回の決算審査で問題にし、対応を訊きました。原子力防災担当者は、「県の監視センターによると、部品調達が間に合わず、今月中に修理完了となる」と答えました。



# はしづめ法一の 活動レポート

**No.2029 2021.9.26**  
発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一 検索

# 春よ来い

## 第六七六回

## 九七歳の仕事

一〇日ほど前のことでした。午前四時ごろだったと思います。「オレ、仕事しねでいいが」と母がベッドから声をかけてきたのは。

母は九七歳。突然、突拍子もないことを言い出したので、どうしたのかなと思いつつも私も起きて、「おまんはもういっばい働いてくんだすけ、何もしねでいいんだよ。心配しないで寝ない」と言いました。

それでも母は納得せず、「やだなあ、何も仕事ねえなんて」と言ってきました。

「いいんだよ、仕事なんて、してみようもねえねかね」と言って、私は母の頭をなでました。

このところ、「夢、いっばい見とー」と言っていて、母が私に声をかけることが多くなっていきます。時間帯は早朝の三時から四時がほとんどです。おそらく、この日も母は何か夢を見たのだと思います。その夢の中で、自分だけ仕事をしていないことがはつきりとして、それで私に声をかけてきたのかも知れません。

一人では歩けない、トイレにも行けない、そういう状態ですから、「仕事をしよう」という気持ちは母にはもうないものだと思います。でもそうではなかったのです。

考えてみれば、二年ほど前まで母は、毎日の仕事として居間のカーテンの開け閉めをやっていました。単純な仕事ではありませんが、「これは、オレの仕事だ」という自覚を持っていることはカーテンの引き方ひとつ見ても、わかりました。

その前はと言えば、「笹かんじょ」がありました。大湯区の弟が朝早く笹の葉を採ってきて、わが家に置いていくと、母は、居間の廊下のところで長座布団を敷いて、笹の葉を大ききで分別し、百枚ごとに束ねていました。

さらにその前は笹の葉採りそのものを

やっていました。三輪自転車に乗って笹の葉がある場所へ行き、ハサミを使うことなく、指先で一枚ごとにプチッと採るので、私もその様子を何度か見ましたが、見事な手さばきでした。

もうひとつおまけに、その前の前はとうと……。餅つきの仕事はすべて母にお任せでした。母は自分でもち米を蒸かして、自動餅つき機で餅をつくると、大きな板の上にドンと置いて、一定量をもぎ取り、手のひらの上でくるくるっと回してまあるい餅を作りました。残った餅はいうまでもなくのべ棒でのばして四角い餅にしました。

振り返ってみると、母は体が自由に動いたときは、朝から晩までよく動きまわりました。体が思うように動かなくなっても、体の状態に応じて何らかの仕事をしてきました。それが母にとっては生きがいにつながっていたのだと思います。

どんなに小さなことでも、自分のやっていることが誰かの役に立っている。それが母の誇りであり、母を支えていたのです。

そのことに気づいたとき、「さあさ」と思いました。母に言った「いいんだよ、仕事なんて、してみようもねえねかね」という言葉、これは使ってはならないものでした。母が「オレ、仕事しねでいいが」と言ったときに、「じゃ、なんかひとつ仕事してもらおうかな。何がいいね」と訊（き）けばよかったです。あるいは、こちらから仕事の内容を提案するという手もありました。

もし今度、母が「オレ、仕事しねでいいが」と言ってきたら、「ほしや、ひとつ、大仕事してもらおかな。昔話、ゆっくりしゃべってくんない。その話をちゃんと記録して子どもたちに読んでもらうすけ」と答えたい。どうも今夜あたり、母が声をかけてきそうな予感がします。「とちや、オレ、仕事しねでいいが」と。

## 秋晴れの下、躍動する中学生たち

### ニュースフラッシュ

#### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月15日(水)	9月22日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.050	0.040
新井消防署	0.053	0.053
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.063	0.057
東頸消防署	0.050	0.050
名立分遣所	0.053	0.053
高士分遣所	0.053	0.053

私の地元の吉川中学校体育祭が19日に行われました。台風の影響を考え、翌日に延期したのが当たりました。秋晴れの青空が広がり、さわやかな風も吹いている。最高の体育祭日和となりました。

紅軍、青軍の応援合戦、パネルの採点をしてほしいとの要請がありましたので、それが私の仕事でした。中学生は全校で77人の応援合戦では、いくつかの工夫がしてあって、若さが爆発していました。優劣はつけがたかったですね。カだけでなく、頭脳プレーが求められる五色の綱引きも観戦してきました。久しぶりに若い人たちの元気に触れ、いい空気を吸ってきました。写真、動画のSNSアップは禁止されていたので、今回もイラストを描きました。



【夕チアオイの二度咲き】「今年も咲いたよ」とKさんから連絡をいただきました。夕チアオイの二度咲き、きれいでした。20日、吉川区神田町にて撮影。

# 春よ来い

## 第六七六回

## 九七歳の仕事

一日ほど前のことでした。午前四時ごろだったと思います。「オレ、仕事しねでいいが」と母がベッドから声をかけてきたのは。

母は九七歳。突然、突拍子もないことを言い出したので、どうしたのかなと思いつつも私も起きて、「おまんはもういっばい働いてくんだすけ、何もしねでいいんだよ。心配しないで寝ない」と言いました。

それでも母は納得せず、「やだなあ、何も仕事ねえなんて」と言ってきました。「いいんだよ、仕事なんて、してみようもねえねかね」と言って、私は母の頭をなでました。

このところ、「夢、いっばい見とー」と言って、母が私に声をかけることが多くなっていきます。時間帯は早朝の三時から四時がほとんどです。おそらく、この日も母は何か夢を見たのだと思います。その夢の中で、自分だけ仕事をしていないことがはつきりとして、それで私に声をかけてきたのかも知れません。

一人では歩けない、トイレにも行けない、そういう状態ですから、「仕事をしよう」という気持ちは母にはもうないものだと思います。でもそうではなかったのです。

考えてみれば、二年ほど前まで母は、毎日の仕事として居間のカーテンの開け閉めをやっていました。単純な仕事ではありませんが、「これは、オレの仕事だ」という自覚を持っていることはカーテンの引き方ひとつ見ても、わかりました。

その前はと言えば、「笹かんじょ」がありました。大湯区の弟が朝早く笹の葉を採ってきて、わが家に置いていくと、母は、居間の廊下のところで長座布団を敷いて、笹の葉を大ききで分別し、百枚ごとに束ねていました。

さらにその前は笹の葉採りそのものを

やっていました。三輪自転車に乗って笹の葉がある場所へ行き、ハサミを使うことなく、指先で一枚ごとにプチッと採るので、私もその様子を何度か見ましたが、見事な手さばきでした。

もうひとつおまけに、その前の前はとうと……。餅つきの仕事はすべて母にお任せでした。母は自分でもち米を蒸かして、自動餅つき機で餅をつくると、大きな板の上にドンと置いて、一定量をもぎ取り、手のひらの上でくるくるっと回してまあるい餅を作りました。残った餅はいうまでもなくのべ棒でのばして四角い餅にしました。

振り返ってみると、母は体が自由に動いたときは、朝から晩までよく動きまわりました。体が思うように動かなくなっても、体の状態に応じて何らかの仕事をしてきました。それが母にとっては生きがいにつながっていたのだと思います。

どんなに小さなことでも、自分のやっていることが誰かの役に立っている。それが母の誇りであり、母を支えていたのです。そのことに気づいたとき、「さあさ」と思いました。母に言った「いいんだよ、仕事なんて、してみようもねえねかね」という言葉、これは使ってはならないものでした。母が「オレ、仕事しねでいいが」と言ったときに、「じゃ、なんかひとつ仕事してもらおうかな。何がいいね」と訊（き）けばよかったです。あるいは、こちらから仕事の内容を提案するという手もありました。

もし今度、母が「オレ、仕事しねでいいが」と言ってきたら、「ほしや、ひとつ、大仕事してもらおかな。昔話、ゆっくりしゃべってくんない。その話をちゃんと記録して子どもたちに読んでもらうすけ」と答えたい。どうも今夜あたり、母が声をかけてきそうな予感がします。「とちや、オレ、仕事しねでいいが」と。

## 秋晴れの下、躍動する中学生たち



私の地元の吉川中学校体育祭が19日に行われました。台風の影響を考え、翌日に延期したのが当たりました。秋晴れの青空が広がり、さわやかな風も吹いている。最高の体育祭日和となりました。

紅軍、青軍の応援合戦、パネルの採点をしてほしいとの要請がありましたので、それが私の仕事でした。中学生は全校で77人の応援合戦では、いくつかの工夫がしてあって、若さが爆発していました。優劣はつけがたかったですね。カだけでなく、頭脳プレーが求められる五色の細引きも観戦してきました。久しぶりに若い人たちの元気に触れ、いい空気を吸ってきました。

## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月15日(水)	9月22日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.050	0.040
新井消防署	0.053	0.053
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.063	0.057
東頸消防署	0.050	0.050
名立分遣所	0.053	0.053
高士分遣所	0.053	0.053

### 住宅リフォーム申請すでに290件超える

22日に行われた一般質問で村山市長は、現在申請を受け付けている住宅リフォーム促進事業の後期申請受付数ですでに290件を超えていることを明らかにしました。これは上野公悦議員の質問に答えたものです。

後期分の予算額は2500万円、抽選となることは必至です。日本共産党議員団では、こういう事態を予想し、補正予算で事業費を追加するよう求めていました。早急に手を打ってほしいものです。